

# 公益財団法人滋賀県産業支援プラザ DX計画

---

2026年3月25日



# contents

## 目次

01 - 代表者メッセージ

02 - DX計画の位置付け

03 - DXビジョン

04 - DX戦略とDXによる価値創出

05 - IT基盤整備

06 - DX人材育成

07 - 情報セキュリティ基本方針

08 - DX推進体制

09 - DX取組KPI

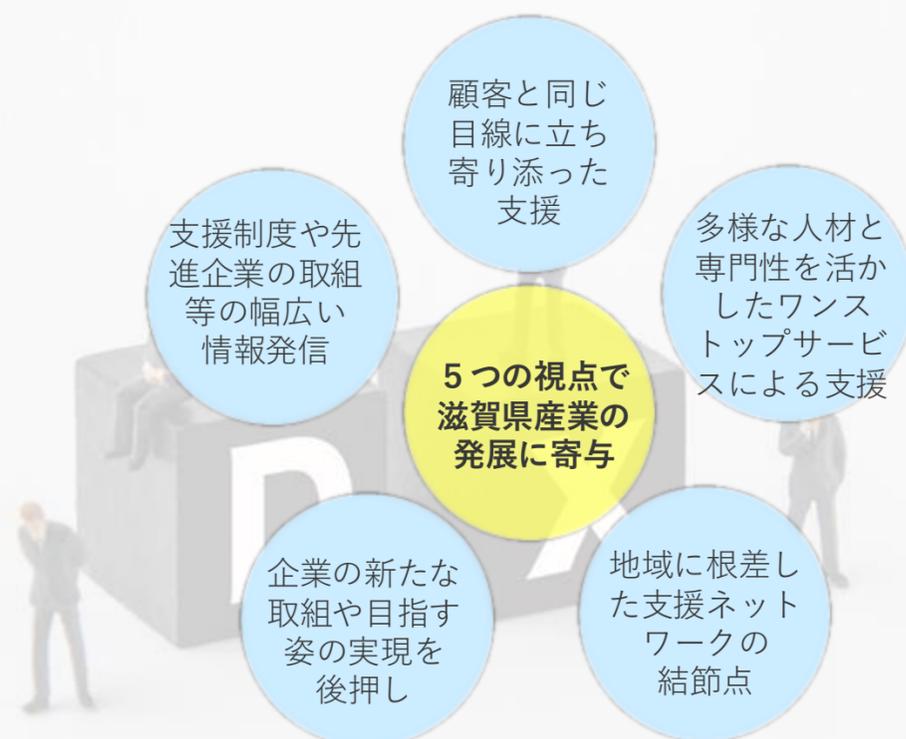
10 - スケジュール



# 01 | 代表者メッセージ

プラザは設立以来、中小企業の皆様に寄り添い、地域に密着した顔の見える支援を行っており、未来を見据え、国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）の理念を念頭に、新たな時代に対応した「チャレンジに対する支援」を5つの視点で進めています。

それらを基に、中小企業の元気を生み出す支援拠点として、「事業者の価値創造に共感し、共に成長する」姿の実現をより一層図るため、プラザの強みである国、県や企業、大学、金融機関、産業支援機関などとのネットワークと、多様な経歴を有する職員や専門家などの人材とともに、地域データとデジタル技術をフルに活用し、「DXで挑戦に力を、未来を形に」をDXビジョンに掲げ、「All Plaza」で取り組んでいきます。



公益財団法人滋賀県産業支援プラザ

理事長 高橋 祥二郎



## 02 | DX計画の位置付け

### ■計画の基本的な考え方 (第五期中期経営計画2025 第2章)

#### 経営理念

私たちは、顧客とのコミュニケーションを大切にし、そのニーズ・シーズの的確な把握のもと、国連で採択された持続可能な開発目標 (SDGs) の理念を念頭に、自らの資源と関係機関等との連携を最大限に活かし、常に質の高いサービスを迅速かつ着実に提供することにより、活力ある滋賀県産業の発展に貢献します。

#### プラザが目指すもの

社会情勢や経営環境がめまぐるしく変化する中、2030年を見据え、滋賀県経済の持続的な成長につながる産業の創出や中小企業の活性化へ向け、『事業者の価値創造に共感し、ともに成長する』姿の実現を目指し、「All Plaza」で地域企業支援に取り組む。

### ■計画の事業目標と重点テーマ (第五期中期経営計画2025 第3章)

- ①人材の確保・育成・活躍支援、 ②新事業創出支援、 ③経営基盤強化支援

### ■計画の推進に向けて (第五期中期経営計画2025 第4章)

職員一人ひとりがプラザの理念と役割を自覚し、組織力が最大限に発揮され、計画の円滑な推進が図られるよう、「All Plaza」として役職員が一丸となって以下の取組を行う。

- ① 計画の進行管理 (KPI)
- ② 経営基盤の強化
- ③ 組織体制の充実・強化
- ④ 人材の育成・活用

⇒地域データとデジタル技術  
の積極的な利活用

## (公財) 滋賀県産業支援プラザ DX計画



DX計画は第五期中期経営計画2025を補完するものと位置付けている

# “DXで挑戦に力を、未来を形に”

地域データとデジタル技術を活用し、「All Plaza」で顧客の成長を後押しします。

- 地域データの利活用による支援力の最大化と顧客満足度の向上
- デジタル技術の利活用による業務効率化と職員のエンゲージメント向上
- 変革マインドの醸成と自律的チャレンジの促進



# 04 | DX戦略とDXによる価値創出

## ■DX戦略

### ○“地域データ”の利活用による支援力の最大化と顧客満足度の向上

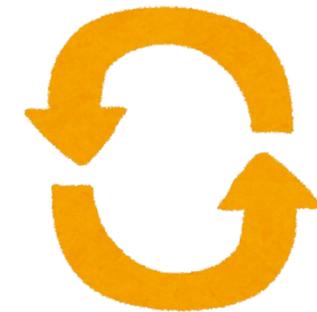
- 顧客とのコミュニケーションにより生まれる課題やニーズ・シーズに関する情報の蓄積と的確な把握を進める
- 顧客の課題やニーズ・シーズ情報、既存支援策の利用実績などデータに基づく支援策の立案を推進する
- 中小企業が実践できるDXをまず実践し、地域企業のDX支援に繋ぐ
- リアルタイムな情報共有と「All Plaza」による重層的な支援の提供により顧客満足度の向上と地域中小企業の持続的成長を目指す

### ○“デジタル技術”の利活用による業務効率化と職員のエンゲージメント向上

- 事務処理と情報共有におけるデジタル化を推進し、生産性向上と属人性排除に取り組む
- デジタル人的資本投資を強化し、情報・データに基づく組織横断的な支援力の強化に努める
- 働き方改革と成果を実感・共感できる取組の推進により、職員のエンゲージメントを高める

### ○“変革マインド”の醸成と自律的チャレンジの促進

- 目標とプロセスを可視化し、挑戦が評価される仕組みをつくる
- デジタル活用による業務改善提案制度を導入する
- 挑戦を促し失敗から学ぶ組織風土の実現を図る

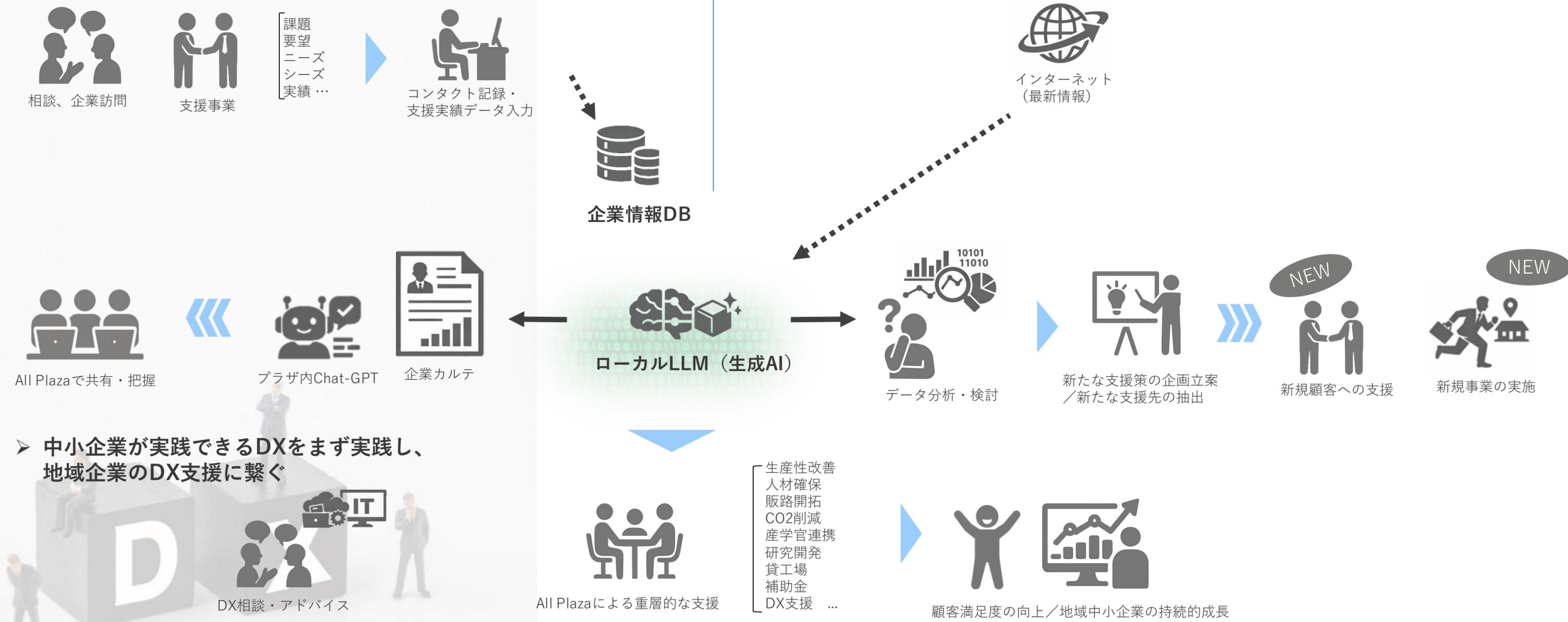


# 04 | DX戦略とDXによる価値創出

## ○地域データの利活用による支援力の最大化と顧客満足度の向上

➤ 顧客とのコミュニケーションにより生まれる課題やニーズ・シーズに関する情報の蓄積と的確な把握を進める

➤ 顧客の課題やニーズ・シーズ情報、既存支援策の利用実績などデータに基づく支援策の立案を推進する



➤ リアルタイムな情報共有と「All Plaza」による重層的な支援の提供により顧客満足度の向上と地域中小企業の持続的成長を目指す

# 04 | DX戦略とDXによる価値創出

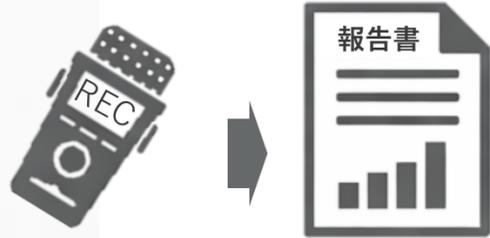
## ○デジタル技術の利活用による業務効率化と職員のエンゲージメント向上

➤ 事務処理と情報共有におけるデジタル化を推進し、生産性向上と属人性排除に取り組む

➤ デジタル人的資本投資を強化し、情報・データに基づく組織横断的な支援力の強化に努める



電子決裁、出張申請/旅費精算



報告書作成 (ローカルLLM)



属人性排除/電話対応削減 (チャットボット)



ローカルLLM (生成AI)



目標管理・評価



DX推進表彰



DX推進体制



DX人材育成・自己啓発支援



リモートワーク (出張先等)



働き方改革 (ワークライフバランス)



成果を実感・共感



エンゲージメント向上



規程整備、セキュリティ対策

➤ **働き方改革と成果を実感・共感できる取組の推進により、職員のエンゲージメントを高める**

# 04 | DX戦略とDXによる価値創出

## ○変革マインドの醸成と自律的チャレンジの促進

➤ 目標とプロセスを可視化し、挑戦が評価される仕組みづくり

➤ デジタル活用による業務改善提案制度の導入



人事評価制度



モチベーション向上



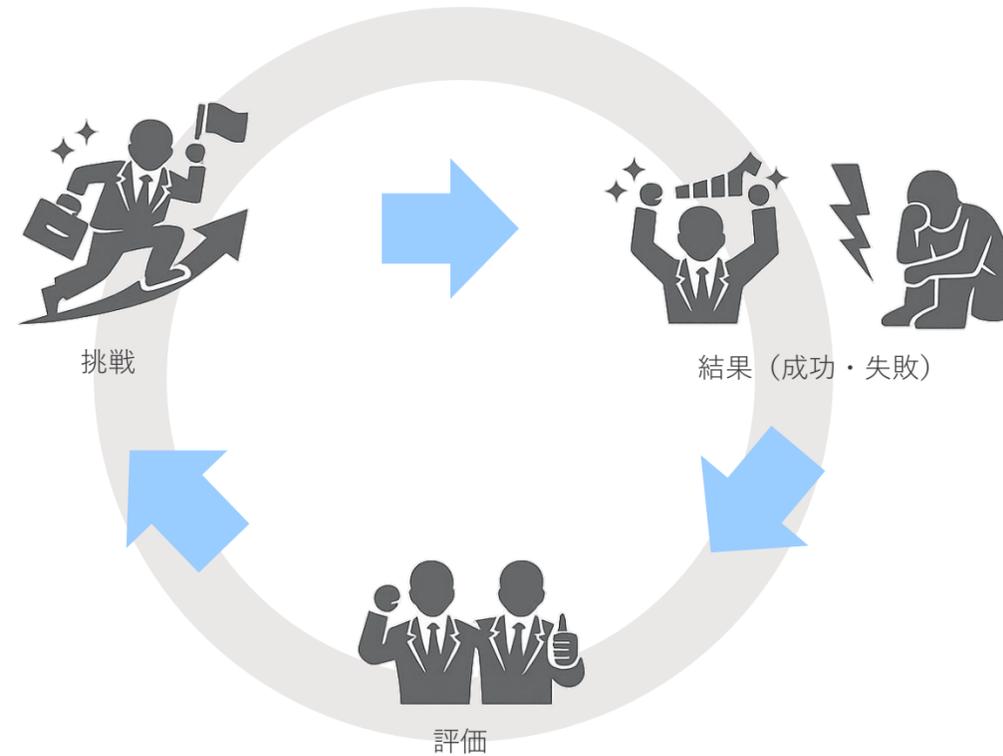
課題や業務のムダ



改善提案



業務の効率化



➤ 挑戦を促し失敗から学ぶ組織風土の実現

# 05 | IT基盤整備

## ●現状

- ウイルス定義ファイルによるプロテクションとファイアウォールによるセキュリティ対策では不十分
- 会議室や出張先でセキュアな環境でイントラにアクセスできず、顧客や関係者へのレスポンスが遅延
- オンプレミス運用のため維持・管理にかかる手間とコストが大きい
- 紙文化が根強く、アナログ作業が多い
- 情報を担当や部門ごとに管理しており、組織横断的な活用ができていない



## ●方向性

- ゼロトラストセキュリティモデルを基本
  - モバイル環境の整備により仕事場所の自由度と業務活用のスピード感を高める (Phase1※、2※)
  - クラウド中心のインフラ構成で維持・管理にかかる負担を軽減 (Phase3※)
  - 事務作業のデジタル化による業務効率化
  - 生成AIの活用による企業データの可視化と利活用
- ※10 スケジュールのPhase参照

➤ 以下の施策によりIT基盤整備に取り組みます。



### 1. リモート環境整備

Wi-fiとモバイル環境の整備により、顧客へのタイムリーなサービス提供に取り組みます。



### 2. インフラ最適化

クラウド中心のインフラ構成への見直しにより、業務環境の最適化と生産性向上を目指します。



### 3. デジタル技術の活用

事務作業のデジタル化により、旅費精算や起案決裁等の業務効率化に取り組みます。



### 4. 企業情報DBの構築と活用

企業情報DBと生成AIの活用により、企業データの利活用に取り組みます。

# 06 | DX人材育成

## ●現状

- 体系的なDX・IT教育がない
- 知識や業務が一部の職員に偏っている
- ベンダーに強く依存しており、自走力が弱い
- システムを良い方向に導ける提案力が不足



## ●方向性

- DXリテラシーの全体底上げ
- 属人化の解消
- ベンダー任せにしない判断・提案ができる人材育成
- DX戦略の実現に向けた育成体系の構築
- 地域企業のDXの好事例となる

➤ 以下の施策によりDX人材の育成に取り組みます。



### 1. DX人材育成システム導入

デザイン思考やアジャイルな仕事の進め方を含めたマインド・スタンスを学びます。  
e-learningシステム導入などによりITリテラシー向上、DXで活用されるデータ・技術に関する知識を体系的に学び、身に付けます。



### 2. DXコミュニティ(勉強会)の発足

プラザ内DXコミュニティ(DX勉強会)を発足し、DXテーマ(業務改善等)の策定とその実現を図ります(自走できるチームを実現します)。



### 3. 資格取得支援

幅広いDX・IT関係の資格取得を、費用面で支援します(ITパスポート、情報セキュリティマネジメント等)。

※「公益財団法人滋賀県産業支援プラザ資格試験補助要領」による

# 07 | 情報セキュリティ基本方針

以下の情報セキュリティ基本方針を定め、全職員で取り組みます。



## 1. 役員の責任

プラザは、役員主導で組織的かつ継続的に情報セキュリティの改善・向上に努めます。

## 2. 組織内体制・環境の整備

プラザは、情報セキュリティの維持および改善のために、対策を組織的に管理運用する体制およびシステム環境を整備し、必要な教育、研修を実施します。



## 3. 役職員の取り組み

プラザの役職員は、必要とされる知識、技術を習得し、情報セキュリティへの取り組みを確かなものにします。

## 4. 法令および契約上の要求事項の遵守

プラザは、情報セキュリティに関わる法令、規制、規範、業務上および契約上の義務を遵守します。

## 5. 違反および事故への対応

プラザは、情報セキュリティに関わる法令違反、契約違反および事故が発生した場合には適切に対処し、再発防止に努めます。



## 6. 継続的改善

プラザは、情報セキュリティに関する状況の変化等に対応するため、定期的または必要に応じて自己診断・点検を実施し、情報セキュリティの向上と継続的な改善を行います。



セキュリティ対策自己宣言

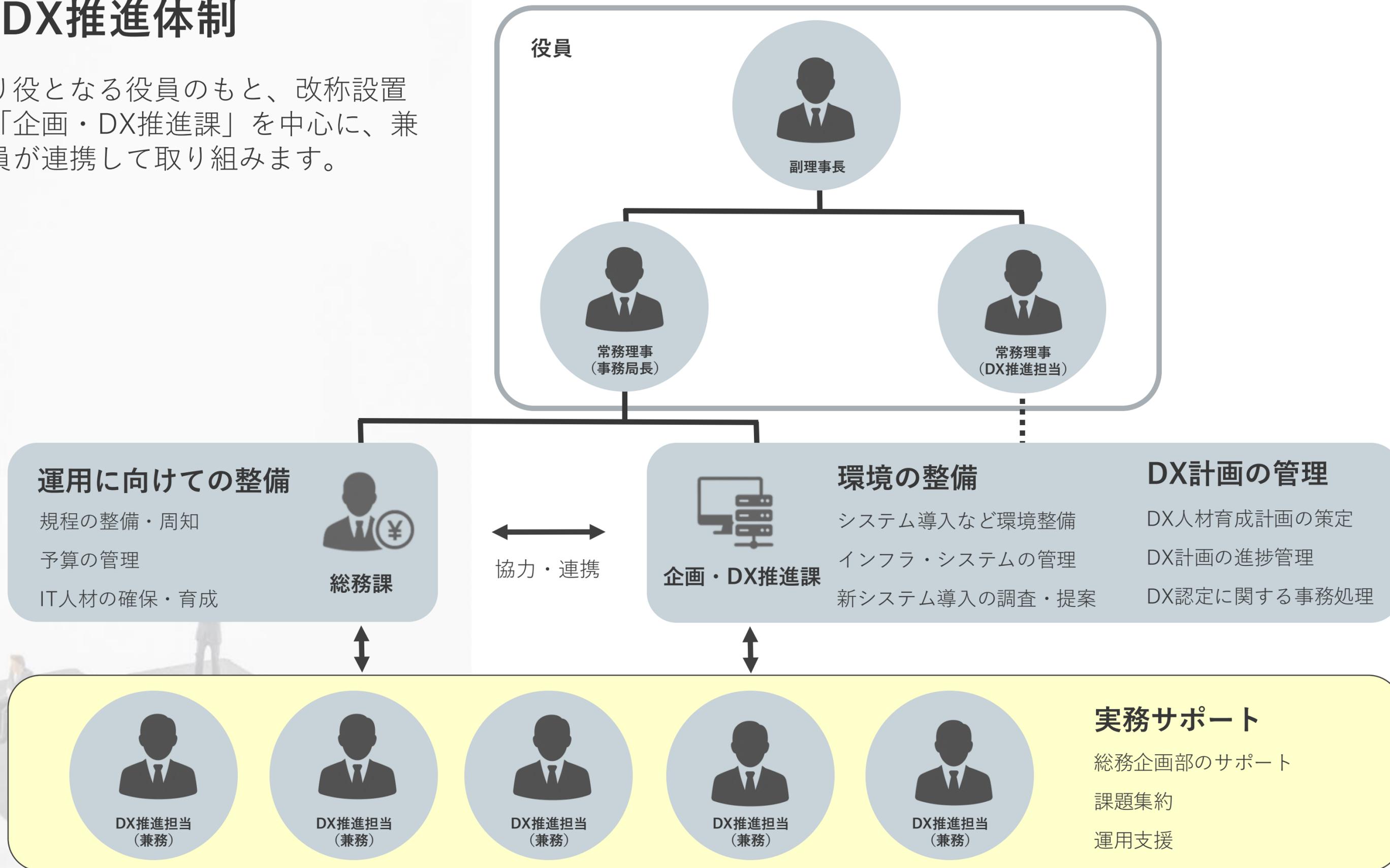
制定日：2026年2月2日

公益財団法人滋賀県産業支援プラザ

理事長 高橋祥二郎

# 08 | DX推進体制

旗振り役となる役員のもと、改称設置する「企画・DX推進課」を中心に、兼務職員が連携して取り組みます。



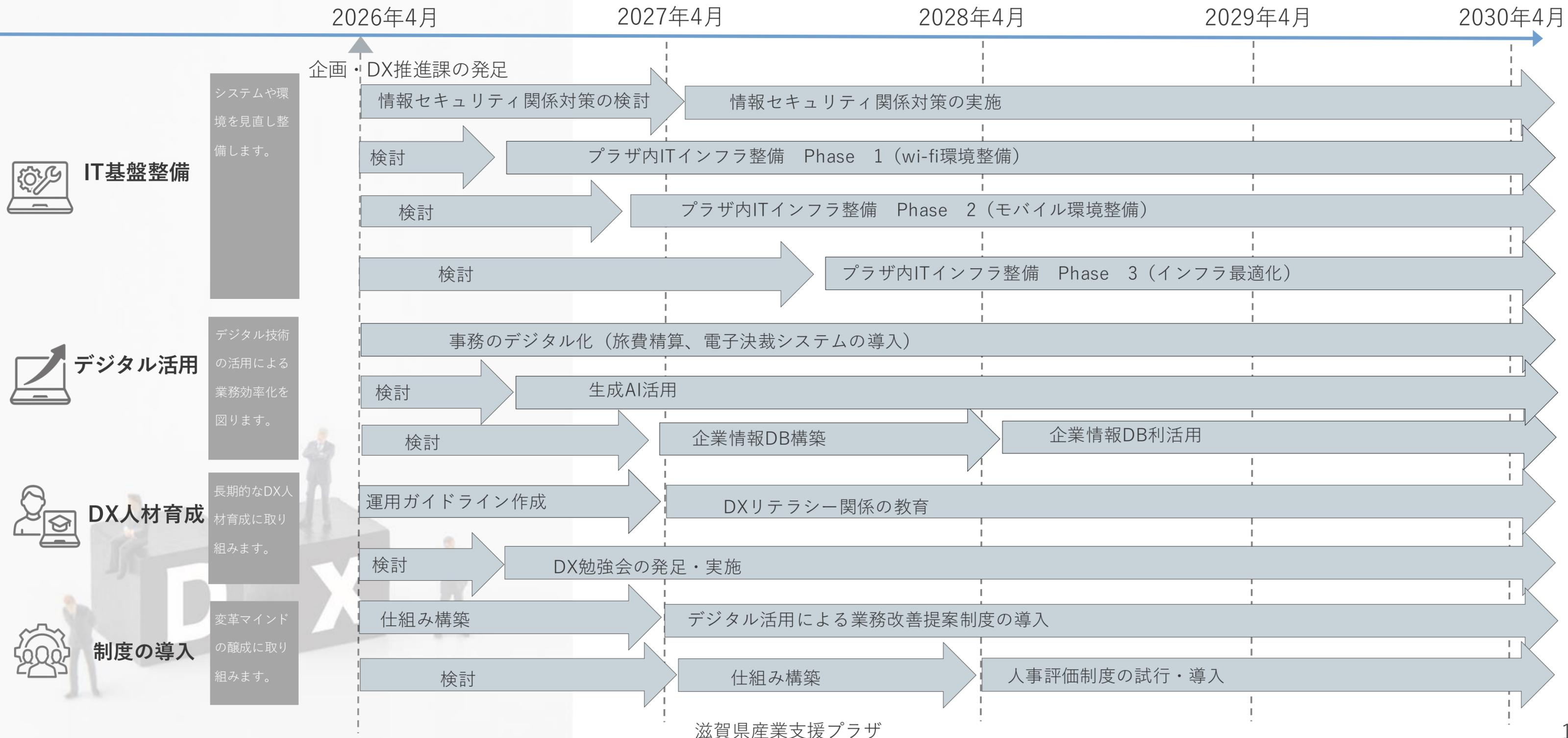
# 09 | DX取組KPI

中期経営計画で定めるKPIに加え、以下でDXの取組の達成度合いを測ります。

分類	DX認定取得に合わせて追加するKPI	現在(2025年)	目標(3年後: 2028年)	算出方法	アクション
業務改革	作業環境満足度	いくつかの項目については不満を感じている人がいる	すべての調査項目の満足度80%以上	毎年期末にアンケート実施(全職員対象)	デジタル環境整備
	紙枚数削減	令和6年4月～令和7年11月の20ヵ月計: 93.7万枚 (平均4.6万枚/月、56.2万枚/年)	50%削減	コピー機使用枚数をカウント	決裁システム導入およびデジタル環境整備
	デジタル活用による業務改善提案の件数	ゼロ	5件/年	提案件数でカウント	提案可能なスキーム構築・評価の仕組み構築 Exitプランを含む提案の周知
情報セキュリティ	情報セキュリティレベル改善	情報セキュリティ自己診断69点	自己診断70～99点	情報セキュリティ自己診断	ウイークポイントの解消
人材育成	DX人材の人数	2人 (プロパー割合: 14%)	7人 (プロパー割合: 50%)	DX人材育成プログラム受講者数	DX人材育成プログラム整備
価値創造	企業DBの整備・活用	一部の事業で限定活用	全社で利活用可能な企業DBを「企業カルテ」として整備・活用する.活用方法については小さな成果に繋がるトライアルを1件以上実施	DBの整備が完了し事業で活用できた件数で算出	全社共通の企業DBを構築 事業活用案を作成しPDCAを実行. 事業活用案ではExitプランを定め、定期的に見直す
	県内DX認定企業	11社	20社	DX認定取得中小企業数	県内中小企業に対するDX浸透とDX認定取得の働きかけ・支援

# 10 | スケジュール

2030年度を目途に段階的に整備していく計画です。



# 参考 | 用語集

用語	解説
DX人材	課題解決やそのために必要なデジタルツールの概要を理解できるといった、ITリテラシーやDXに関する知識を有した人材。
DX人材育成プログラム	目指すDX人材に必要な知識やリテラシーを身に着けるために、プラザが策定する育成プログラム（教材はe-learningシステム等の活用を検討）。
Exitプラン	プロジェクトなどの継続・見直し・終了の条件をあらかじめ設定すること。方針転換などが素早くできるように用意しておくこと。
アジャイル	変化に機敏に対応すること。当初は細かい全体計画を立てず、頻繁なフィードバックと機能ごとの開発・リリースにより、変化への適応と価値最大化を目指す手法。元々はソフトウェア開発手法の一つであったが、現在はあらゆるプロジェクトや企業内の取組で取り入れられている考え方。
エンゲージメント	職員が組織に対して感じる「心理的なつながり」「貢献意欲」「前向きな関与」の度合い。
オンプレミス	ネットワーク構成機器（ITインフラ）を組織内に保有し、管理運用している利用形態のこと。
自律的チャレンジ	他人からの指示を待たず、個人や組織が主体的に目的・課題を設定し、失敗を恐れずに高い目標へ挑戦する行動。
ゼロトラスト	「何も信頼しない」という前提に基づき、組織内など通常正式な権限を有すると判断される環境からのアクセスであっても信用せず、パスワード・利用端末・行動などの多角的要素から検証し、可否を判断するセキュリティの考え方。
デザイン思考	ユーザー視点に重きを置いて、課題の本質やニーズを発見し、創造的に問題を解決する思考法。多くのアイデアを出し、より良い解決策を見つけ出すことが特徴。
ローカルLLM	LLM（Large Language Models：大規模言語モデル）は、インターネット上の膨大なテキストデータをディープラーニング技術で学習し、人間のような自然な文章理解・生成を行うAIモデル。 ローカルLLMとは、社内サーバー（ローカル環境）で生成AIを実行するモデルのこと。情報漏洩リスクがなく生成AIが利用できる。
企業カルテ	企業の情報について体系的にまとめた記録のこと。企業の基本情報に加え、プラザのコンタクト記録や支援情報、企業の課題、取組、実績、業績などの情報を指す。
作業環境満足度	ネットワーク、PC、ソフトウェア、セキュリティの4つの大項目において、3～5段階評価でプラザ組織内にて測定したもの。
地域データ	滋賀県内の人口、経済、環境などの公開情報に加え、プラザが保有する企業固有のコンタクト記録や支援情報を指す。